

教科	国語	科目	論理国語	単位数	2	学年	3年
教科書(出版社)	新編論理国語(東京書籍)						
副教材(出版社)	プレミアムカラー国語便覧(数研出版)						

### 1. 科目の目標

<p>言葉による味方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他社との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようになる。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>
---

### 科目のルーブリック

知識や情報等の活用 — 信頼できる知識や情報等を収集し、有効に活用できる —	レベル	ICTを活用した情報発信 — ICTを活用し、情報発信をすることができる —
情報の正確さを判断して自らの知識とし、得た知識や情報をまとめて他者の課題解決に役立てることができる。	4	世界や地域の持つ課題や世の中の事象に関心をもち、探究心をもって自ら課題を発見し、他者と協働しながら数学的な視点で解決策を考え、考察することができる。
情報の正確さを判断して自らの知識とし、得た知識や情報をまとめ、自身の課題解決に役立てることができる。	3	世界や地域の持つ課題や世の中の事象に関心をもち、他者と協働しながら数学的な解決策を提案したり、協議したりすることができる。
情報の正確さを判断して自らの知識とし、得た知識や情報をまとめることができる。	2	世の中の事象に関心をもち、与えられた課題に積極的に取り組むことができる。
相談しながら知識や情報を集めることができる。	1	周囲と協力して、与えられた課題の解決に向けて努力することができる。

実施予定時期	単元名	学習内容
1学期	「物語の外から」岸政彦 「カフェの開店準備」小池昌代 「鏡としてのアンドロイド」 書く「短い論文を書いて読み合おう」	
2学期	「言葉は『ものの名前』ではない」内田樹 「科学的『発見』とは」小川眞理子 「もう一つの知性」姜尚中 書く「資料を活用して論述しよう」	
3学期	「ホンモノのおカネの作り方」岩井克人 「未来のありか」若林幹夫	

評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観点に基づいて学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定に換算します。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。	・単元テスト ・定期考査 ・小テスト ・口頭試問 など	・単元テスト ・定期考査 ・レポートの記述 ・探究活動の内容 ・学習状況の観察 など	・学習等の観察 ・課題等の記述 ・自己評価 など
学習方法	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を養うことを目的とします。「働くこと」「自然科学」など、多様なテーマの教材を取り上げます。ただ授業を聞くだけでなく、自分なりの意見や考えを持って主体的に学習に取り組みましょう。		
ICT活用	ドキュメント(レポート・感想文)、スライド(発表資料・まとめ)、ジャムボード(意見集約・まとめ)Forms(振り返り)		

教科	国語	科目	文学国語	単位数	2	学年	3 年
教科書(出版社)	新編文学国語(大修館書店)						
副教材(出版社)	プレミアムカラー国語便覧(数研出版)						

### 1. 科目の目標

- (1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
- (2)深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を高め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

### 科目のルーブリック

知識や情報等の活用 — 信頼できる知識や情報等を収集し、有効に活用できる —	レベル	課題探究力 — 探究活動を通じて、課題探究力を高める —
知識や情報の正確さを判断したり、知識や情報を活用するために必要な収集・整理・分析の方法を学び、他者の課題解決に役立てることができる。	4	他の作品や自分の経験と比較したり関連付けたりし、自分なりの意味や解釈の多様性について考察し、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方や考え方を深めている。
知識や情報の正確さを判断したり、知識や情報を活用するために必要な収集・整理・分析の方法を学び、自身の課題解決に役立てることができる。	3	他の作品や自分の経験と比較したり関連付けたりし、自分なりの意味や解釈の多様性について考察し、ものの見方、感じ方や考え方を深めている。
知識や情報の正確さを判断し、学び得た知識や情報をまとめることができる。	2	他の作品や自分の経験と比較したり関連付けたりし、自分なりの意味や解釈の多様性について考察している。
相談しながら知識や情報を集めることができる。	1	自分の経験と比較したり関連付けたりし、自分なりの意味について考察している。

実施予定時期	単元名	学習内容
1学期	心を見つめる「飛ぶことを知っている魂」梨木香歩 古典の世界『源氏物語』『桐壺』『若紫』 古文の名文に触れる 小説を楽しむ「待合室」内海隆一郎 巻末 文学の流れ	
2学期	文化を感じる「共感と驚異」穂村弘 古典の世界『史記』『四面楚歌』 小説を楽しむ「山椒魚」井伏鱒二 短歌・俳句に親しむ「短歌」「俳句」「俳句を作ろう」 巻末 文学の流れ	
3学期	文学を生み出す「書齋」眉村卓 巻末 文学の流れ	

評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観点に基づいて学期ごとに評価し、学年末に5段階の評価に換算します。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。	・単元テスト ・定期考査 ・小テスト ・口頭試問 など	・定期考査 ・課題、レポートの記述 ・探究活動の内容 ・学習状況等の観察 など	・学習状況等の観察 ・課題、レポート等の記述 ・振り返り、自己評価 など
学習方法	上代から近現代までの我が国の文学について学びます。登場人物の人間関係や心理を読み取るために語句の意味を調べたり、自分との比較を通して思考を深めたりします。当時の人々が見たり考えたり感じたりしたことを当時の言葉を通じて知り、その共通点に気づくことを意識しながら学習します。		
ICT活用	ドキュメント(レポート・ワークシート)、スライド(発表資料・まとめ)、スプレッドシート(データ整理)、ジャムボード(意見集約・まとめ)、Forms(小テスト・振り返り・アンケート)		

教科	地理歴史	科目	日本史探究	単位数	3	学年	3年
教科書(出版社)	詳説日本史(山川出版社)						
副教材(出版社)	詳説日本史ノート(山川出版社)						

### 1. 科目の目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ課題を追究したり解決したりする活動を通して広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

(2) 我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

(3) 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

### 科目のルーブリック

知識や情報等の活用 — 信頼できる知識や情報等を収集し、有効に活用できる —	レベル	課題探究力 — 探究活動を通じて、課題探究力を高める—
情報の正確さを判断して自らの知識とし、得た知識や情報をまとめて他者の課題解決に役立てることができる。	4	課題を関連させながら自ら課題を発見し多角的な視点でその解決に取り組むことを通じて、社会貢献に向けた活動ができる。
情報の正確さを判断して自らの知識とし、得た知識や情報をまとめ、自身の課題解決に役立てることができる。	3	課題を自ら発見し、多角的な視点でその解決に取り組むことができる。
情報の正確さを判断して自らの知識とし、得た知識や情報をまとめることができる。	2	様々な課題を認識し、その解決に向けて計画を立てることができる。
相談しながら知識や情報を集めることができる。	1	様々な課題を認識することができる。

実施予定時期	単元名	学習内容
1学期	第Ⅰ部 原始・古代 第Ⅱ部 中世	第1章 日本文化のあけぼの 第2章 古墳とヤマト政権 第3章 律令国家の形成 第4章 貴族政治の展開 第5章 院政と武士の躍進 第6章 武家政権の成立 第7章 武家社会の成長
2学期	第Ⅲ部 近世 第Ⅳ部 近代・現代	第8章 近世の幕開け 第9章 幕藩体制の成立と展開 第10章 幕藩体制の動揺 第11章 近世から近代へ 第12章 近代国家の成立 第13章 近代国家の展開
3学期	第Ⅳ部 近代・現代	第14章 近代の産業と生活 第15章 恐慌と第二次世界大戦 第16章 占領下の日本 第17章 高度成長の時代 第18章 激動する世界と日本

評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観点に基づいて学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定に換算します。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。	・単元テスト ・定期考査 ・復習プリント など	・単元テスト ・定期考査 ・課題、レポートの記述 ・学習状況等の観察 など	・課題、レポート等の記述 ・学習状況等の観察 ・振り返り、自己評価 など
学習方法	日本史探究は、我が国の歴史について、資料を活用し多面的・多角的に考察する力を身に付け、現代の日本の諸課題を見いだして、その解決に向けて生涯にわたって考察、構想することができる資質・能力を育成する科目として構成されています。多様な資料を効果的に活用して、歴史を考察し表現し、歴史学習にかかわる基本的な技能を段階的に高めていけるように学習しましょう。		
ICT活用	ドキュメント(レポート・ワークシート)、スライド(発表資料・まとめ)、スプレッドシート(データ整理)、ジャムボード(意見集約・まとめ)Forms(小テスト・振り返り・アンケート)		

教科	公民	科目	政治・経済	単位数	3	学年	3 年
教科書(出版社)	政治・経済(東京書籍)						
副教材(出版社)	要点マスター政治・経済 整理と演習(東京書籍)						

### 1. 科目の目標

社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

(2) 国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの実現可能性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。

(3) よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。

### 科目のルーブリック

知識や情報等の活用 — 信頼できる知識や情報等を収集し、有効に活用できる —	レベル	郷土の未来創造 — グローバルな視点を持ち、郷土の未来を想像できる —
情報の正確さを判断して自らの知識とし、政治・経済の授業で得た知識や情報をまとめて他者の課題解決に役立てることができる	4	社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、グローバルな視点を持って、地元貢献するのに必要なリーダーシップ、協調性、想像力を身に付け、郷土の未来創造のために行動できる
情報の正確さを判断して自らの知識とし、政治・経済の授業で得た知識や情報をまとめ、自身の課題解決に役立てることができる	3	現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、地元貢献するのに必要なリーダーシップ、協調性、想像力を身に付け、郷土の未来創造のために行動できる
情報の正確さを判断して自らの知識とし、政治・経済の授業で得た知識や情報をまとめることができる	2	現代の諸課題を追究する活動を通して、地元貢献するのに必要な協調性、想像力を身に付け、郷土の未来創造のために行動できる
相談しながら政治・経済の授業で得た知識や情報を集めることができる	1	地元貢献するのに必要な想像力を身に付け、郷土の未来創造のために行動できる

実施予定時期	単元名	学習内容
1学期	第1編 現代日本の政治と経済 第2章 現代日本の経済 1節 現代の資本主義経済 2節 現代経済のしくみ 3節 日本経済の発展と現状	1 経済活動の意義 2 資本主義経済の発展と変容 1 経済主体と経済の循環 2 生産のしくみと企業 3 市場経済の機能と限界 4 国民所得と経済成長 5 金融のしくみと機能 6 財政のしくみと機能 1 戦後日本経済の発展 2 日本経済の現状
2学期	4節 福祉社会と日本経済の課題 第3章 現代日本の諸課題 第2編 グローバル化する国際社会 第1章 現代の国際政治 1節 国際政治のしくみ 2節 複雑化する国際政治と日本 第2章 現代の国際経済 1節 国民経済と国際経済 2節 世界経済の現状と課題	1 公害と環境保全 2 農業・食料問題 3 中小企業の現状と課題 4 情報化の進展と社会の変化 5 消費者問題 6 雇用と労働問題 7 社会保障と福祉 1 少子高齢社会における社会保障 2 地域社会の活性化 3 多様な働き方・生き方の実現 4 中小企業の意義と課題 5 日本の財政の健全化 6 持続可能な食料・農業の実現 7 防災と安全・安心な社会の実現 1 国際政治の特質 2 国際社会と国際法 3 国際連合の役割と課題 1 戦後国際関係の展開と日本 2 冷戦後の国際関係と日本 3 地域主義の動き 4 軍縮の動向と課題 5 紛争・難民・テロリズム 6 国際社会における日本の役割 1 貿易と国際収支 2 戦後国際経済体制の展開 3 発展途上国の経済 1 グローバル化する世界経済 2 地球環境問題 3 資源・エネルギー問題 4 人口・貧困・感染症
3学期	第3章 国際社会の諸課題	1 グローバル化にともなう社会変容 2 地球環境と資源・エネルギー問題 3 国際的な経済格差の是正 4 イノベーションの促進と成長市場 5 民族問題と紛争の解決 6 持続可能な社会の実現

評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
*観点に基づいて学期ごとに評価し、学年末に白紙の解説に換算します。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。	○定期テスト ○単元テスト ○レポート課題 ○資料の読み取り ○学習の振り返り	○定期テスト(論述問題など) ○レポート課題 ○討論・発表 ○学習の振り返り	○レポート課題 ○討論・発表 ○学習の振り返り
学習方法	教科書を中心にして授業を進めていきます。まずは教科書を理解することが大切です。時事的な話題を絡めながら授業を行っていくので、ニュースや新聞などをよんでいるとさらに理解を深めることができます。単元テストは、知識を問う問題が多くする予定です。定期テストでは、教科書の中にあるデータ等を利用した問題を出題する予定です。資料の読み取りができるようになっていきたいと思います。		
ICT活用	Google(資料等検索)、ドキュメント(レポート)、スライド(発表資料)、スプレッドシート(データ整理)、ジャムボード(意見集約)、Forms(単元テスト・振り返り・アンケート)		

教科	数学	科目	数学Ⅱ	単位数	3	学年	3年
教科書(出版社)	最新 数学Ⅱ(数研出版)						
副教材(出版社)	REPEAT 数学Ⅱ+B						

### 1. 科目の目標

(1) 数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。  
(2) 離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。  
(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

### 科目のルーブリック

知識や情報等の活用 — 信頼できる知識や情報等を収集し、有効に活用できる —	レベル	課題探究力 — 探究活動を通じて、課題探究力を高める—
情報の正確さを数学的に判断し、得られた知識や技術をもとに、数学的論拠に基づき他者の課題解決に役立てることができる	4	世界や地域の持つ課題や世の中の事象に関心をもち、探究心をもって自ら課題を発見し、他者と協働しながら数学的な視点で解決策を考え、考察することができる。
情報の正確さを判断したり、情報を活用するために必要な数学的技法を学び、それらを自らの知識や技術とし、自身の課題解決に役立てることができる	3	世界や地域の持つ課題や世の中の事象に関心をもち、他者と協働しながら数学的な解決策を提案したり、協議したりすることができる。
情報の正確さを判断して自らの知識とし、得た知識や情報を利用することができる	2	世の中の事象に関心をもち、与えられた課題に積極的に取り組むことができる。
相談しながら知識や情報を集めることができる	1	周囲と協力して、与えられた課題の解決に向けて努力することができる。

実施予定時期	単元名	学習内容
1学期	第4章 三角関数 第5章 指数関数・対数関数	(1) 弧度法の考え方 (2) 三角関数のグラフ (3) 加法定理 (4) 指数法則と対数の性質 (5) 指数関数、対数関数と方程式、不等式
2学期	第6章 微分・積分の考え方	(1) 導関数と微分 (2) 接線の方程式 (3) 関数の増減 (4) 不定積分と定積分 (5) 定積分と面積
3学期	高校数学のまとめ	希望進路や進路先で活用するための数学の基礎を学習する。

評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観点に基づいて学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定に換算します。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。	・単元テスト ・定期考査 ・授業中の課題への取り組み状況	・単元テスト ・定期考査 ・ペアワーク、グループワークの活動状況 ・発表やプレゼンテーション	・課題レポートへの取組状況 ・週末課題の提出 ・スタディサプリへの取組状況 ・意欲的に課題解決に向かう態度
学習方法	指数関数や対数関数、微分積分の考え方は、実は世の中ですべても活用されている分野です。計算が主となる分野でもあり、理解できると楽しくなってくると思います。特に大学や工学系の専門学校へ進学する人、また、製造業など工業系の企業へ就職予定の人はぜひとも押さえておきたい分野です。頑張りましょう！		
ICT活用	ドキュメント(レポート)、スプレッドシート(データ整理、分析など)、ジャムボード(意見交換)、Forms(振り返り、アンケート)、電子黒板		

教科	数学	科目	数学C	単位数	3	学年	3年
教科書(出版社)	最新 数学C(数研出版)						
副教材(出版社)	なし(プリントで対応)						

### 1. 科目の目標

- (1)ベクトル、平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- (2)大きさや向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
- (3)数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度や創造性の基礎を養う。

### 科目のルーブリック

知識や情報等の活用 — 信頼できる知識や情報等を収集し、有効に活用できる —	レベル	課題探究力 — 探究活動を通じて、課題探究力を高める—
情報の正確さを数学的に判断し、得られた知識や技術をもとに、数学的論拠に基づき他者の課題解決に役立てることができる	4	世界や地域の持つ課題や世の中の事象に関心をもち、探究心をもって自ら課題を発見し、他者と協働しながら数学的な視点で解決策を考え、考察することができる。
情報の正確さを判断したり、情報を活用するために必要な数学的技法を学び、それらを自らの知識や技術とし、自身の課題解決に役立てることができる	3	世界や地域の持つ課題や世の中の事象に関心をもち、他者と協働しながら数学的な解決策を提案したり、協議したりすることができる。
情報の正確さを判断して自らの知識とし、得た知識や情報を利用することができる	2	世の中の事象に関心をもち、与えられた課題に積極的に取り組むことができる。
相談しながら知識や情報を集めることができる	1	周囲と協力して、与えられた課題の解決に向けて努力することができる。

実施予定時期	単元名	学習内容
1学期	第1章 ベクトル(復習) 第2章 複素数平面	(1)平面のベクトルと空間のベクトル(復習) (2)複素数平面への図示 (3)ド・モアブルの定理 (4)座標の回転
2学期	進路実現に向けた総合演習	数学 I IIABの内容も含め、科目横断的な学習も取り入れながら希望進路実現に向けた演習を行う。
3学期	進路実現に向けた総合演習	数学 I IIABの内容も含め、科目横断的な学習も取り入れながら希望進路実現に向けた演習を行う。

評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観点に基づいて学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定に換算します。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。	・単元テスト ・定期考査 ・授業中の課題への取り組み状況	・単元テスト ・定期考査 ・ペアワーク、グループワークの活動状況 ・発表やプレゼンテーション	・課題レポートへの取組状況 ・週末課題の提出 ・スタディサプリへの取組状況 ・意欲的に課題解決に向かう態度
学習方法	演習がメインの科目となります。時には個別指導も取り入れます。担当者が準備するものだけでなく、自ら課題を見つけ、主体的に問題解決に取り組んでください。共通テストや四年制大学の2次試験問題の演習も入れる予定です。		
ICT活用	ドキュメント(レポート)、スプレッドシート(データ整理、分析など)、ジャムボード(意見交換)、Forms(振り返り、アンケート)、電子黒板		

教科	理科	科目	科学と人間生活	単位数	3	学年	3年
教科書(出版社)	科学と人間生活(東京書籍)						
副教材(出版社)	新課程 ニューサポート 科学と人間生活(東京書籍)						

### 1. 科目の目標

<p>自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <p>(1) 自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。</p>
--

### 科目のルーブリック

知識や情報等の活用 — 信頼できる知識や情報等を収集し、有効に活用できる —	レベル	課題探究力 — 探究活動を通じて、課題探究力を高める—
情報の正確さを判断して自らの知識とし、得た知識や情報をまとめて他者の課題解決に役立てることができる	4	科学と人間生活に関する様々な課題を自ら課題を発見し、科学的な視点でその問題点を分析して解決に向けた計画を立て、実現ができる。
情報の正確さを判断して自らの知識とし、得た知識や情報をまとめ、自身の課題解決に役立てることができる	3	科学と人間生活に関する身近な課題を自ら発見し、科学的な視点でその問題点を分析し、解決策を考えることができる。
情報の正確さを判断して自らの知識とし、得た知識や情報をまとめることができる	2	科学と人間生活に関する身近な課題を認識し、科学的な視点でその問題点を分析することができる。
相談しながら知識や情報を集めることができる	1	科学と人間生活に関する身近な課題を認識することができる。

実施予定時期	単元名	学習内容
1学期	1編1章 微生物とその利用	①さまざまな微生物 ②私たちの暮らしへの微生物の利用
2学期	2編1章 材料とその再利用 3編2章 熱の性質とその利用	①リサイクルとは何か ②金属の性質とその再利用 ③プラスチックの性質とその再利用 ①熱とは何か ②エネルギーの利用と私たちの暮らし
3学期	4編2章 自然景観と自然災害	①身近な自然景観の成り立ち ②自然災害と防災

評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観点に基づいて学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定に換算します。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。	定期考査 単元テスト 小テスト など	定期考査 単元テスト レポート プレゼンテーション など	課題 振り返り 学習状況 など
学習方法	現代の生活のさまざまなところに、実は科学があふれています。学習を通して、いろいろな現象を科学的な視点で見えて考える力を育てましょう。そして、これからの生活で正しい判断ができるようになってほしいと思います。		
ICT活用	ドキュメント(レポート等)、スプレッドシート(データ整理)、スライド(プレゼンテーション)Forms(テスト実施、テスト作成、アンケート)、Jamboard(意見交換、アイデア出し)、Youtube(動画視聴)、スタディサプリ(講義・課題)など		

教科	理科	科目	化学	単位数	3	学年	3 年
教科書(出版社)	高等学校 化学 Chemistry (啓林館)						
副教材(出版社)	新課程版 セミナー化学基礎+化学						

### 1. 科目の目標

<p>化学的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、化学的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。</p>
--

### 科目のルーブリック

知識や情報等の活用 — 信頼できる知識や情報等を収集し、有効に活用できる —	レベル	課題探究力 — 探究活動を通じて、課題探究力を高める —
情報の正確さを判断して自らの知識とし、得た知識や情報をまとめて他者の課題解決に役立てることができる。	4	立場や考え方の違う相手から意見を引き出し、互いの立場を尊重して、化学的な事象に関する疑問や社会課題の解決に向けて話し合うことができ、習得した知識を日常生活に活かすことができる。
情報の正確さを判断して自らの知識とし、得た知識や情報をまとめ、自身の課題解決に役立てることができる。	3	立場や考え方の違う相手から意見を引き出し、互いの立場を尊重して、化学的な事象に関する疑問や社会課題の解決に向けて話し合うことができ、新たな知識を習得することができる。
情報の正確さを判断して自らの知識とし、得た知識や情報をまとめることができる。	2	立場や考え方の違う相手から意見を引き出し、互いの立場を尊重して、化学的な事象に関する疑問や社会課題の解決に向けて話し合うことができる。
相談しながら知識や情報を集めることができる。	1	互いの立場を尊重して、化学的な事象に関する疑問や社会課題の解決に向けて話し合うことができる。

実施予定時期	単元名	学習内容
1学期	第1部 物質の状態	第4章 溶液の性質
	第2部 物質の変化と平衡	第1章 化学反応と熱・光エネルギー 第3章 反応速度 第4章 化学平衡
2学期	第3部 無機物質	第1章 周期表と元素の分類 ～第4章 遷移元素
	第4部 有機化合物	第1章 有機化合物の特徴と分類 ～第4章 芳香族化合物
3学期	第5部 高分子化合物	第1章 高分子化合物 ～第3章 合成高分子化合物  ※志望に応じて大学入学共通テスト及び大学個別学力試験対策を実施する。

評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観点に基づいて学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定に換算します。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。	・単元テスト ・定期考査 ・実験、観察での活動状況 など	・単元テスト ・定期考査 ・ペアワーク、グループワークの活動状況 ・実験、観察での活動状況 など	・課題レポートへの取組状況 ・振り返りレポート ・自己評価とその後の学習の調整状況 など
学習方法	化学は、化学基礎に加えてさらに広範囲の知識を活用し、日常生活や先端科学技術に関わる事物・現象の原理原則を学ぶことができます。多くの知識や定理を用いた計算なども登場してきますが、物質やイオンの動きをイメージし、定理の中身を考えながら運用していきましょう。難解なところは、ペアワークやグループワークの中で互いに学びあい、お互いにきちんと理論立てて「説明できるまで」、学習する意識を大切にしてください。 頑張ってもらいたいこと ①学習ファイルの管理 ②単元テストへの対策 ③学習の振り返り・調整 ④定期考査 ⑤ペアワーク、グループワークでの積極的な意見交換		
ICT活用	ドキュメント(レポート)、スプレッドシート(実験データ整理)、ジャムボード(意見交換)、Forms(振り返り、アンケート)		



教科	保健体育	科目	体育	単位数	2	学年	3 年
教科書(出版社)	現代高等保健体育改訂版 (大修館書店)						
副教材(出版社)	現代高等保健体育ノート改訂版・アクティブスポーツ【総合版】(大修館書店)						

### 1. 科目の目標

<p>体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)●各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2)●運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。</p> <p>(3)●生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。</p>
---

### 科目のルーブリック

知識や情報等の活用 — 信頼できる知識や情報等を収集し、有効に活用できる —	レベル	他者との協働 — 他者と協働し、解決に向け合意形成して行動できる—
情報の正確さを判断したり、情報を活用するために必要な収集・整理・分析の方法を学び、他者と共に課題解決に役立てることができる	4	立場や考え方の違う相手から意見を引き出し、互いの立場を尊重して、課題解決に向けて合意形成を図り、さらにそれを実現できる
情報の正確さを判断したり、情報を活用するために必要な収集・整理・分析の方法を学び、発表することが出来る	3	立場や考え方の違う相手から意見を引き出し、互いの立場を尊重して、課題解決に向けて合意形成を図ることが出来る
情報の正確さを判断して自らの知識とし、得た知識や情報をまとめることができる	2	互いの立場を尊重し、ともに課題解決に向けて活動することが出来る
知識や情報を集めることが出来る	1	話し合いの場で、自分の意見を持つことが出来る

実施予定時期	単元名	学習内容
1学期	・体作り運動 ・ダンス ・陸上競技(短距離、跳躍) ・球技 ・体育理論	・体ほぐしの運動、実生活の生かす運動の計画 ・ゴール型、ネット型、ベースボール型から選択 ・創作ダンス ・1「生涯スポーツの見方、考え方」 ・2「ライフスタイルに応じたスポーツ」
2学期	・球技 ・陸上競技(長距離) ・体育理論	・ゴール型、ネット型、ベースボール型から選択 ・長距離走 ・3「スポーツを推進する取り組み」 ・4「豊かなスポーツライフの創造」
3学期	・球技	・ゴール型、ネット型、ベースボール型から選択

評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
上に示す観点に基づいて、学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定に換算します。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。	・単元毎のペーパーテスト ・実技テスト ・学習状況の観察及び記録	・学習状況の観察及び記録 ・ワークシートの記述 ・単元毎のペーパーテスト ・実技テスト	・学習状況の観察及び記録 ・ワークシートの記述 ・単元毎のペーパーテスト ・授業に取り組む姿勢の変移
学習方法	健康の保持増進などのために行われる運動や一定のルールや文化性をもつスポーツは、体を動かすという人間の本源的な欲求にこたえたとともに、爽快感、達成感、他者との連帯感等の精神的充足や楽しさ、喜びをもたらす。さらには、体力の向上や精神的なストレスの発散、生活習慣病の予防など、心身の両面にわたる健康の保持増進に資するものです。これらのことを理解して学習活動に主体的に取り組んでください。		
ICT活用	①電子黒板及びスクリーンの動画視聴 ②タブレットカメラ及びビデオ機能(振り返り・資料) ③スプレッドシート(データ整理) ④Forms(振り返り・アンケート)		

教科	音楽	科目	音楽Ⅱ	単位数	2	学年	3年
教科書(出版社)	MOUSA②(教育芸術社)						
副教材(出版社)	なし						

### 1. 科目の目標

音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めるとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。

(2)個性豊かに音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴くことができるようにする。

(3)主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

### 科目のルーブリック

知識や情報等の活用 — 信頼できる知識や情報等を収集し、有効に活用できる —	レベル	課題探究力 — 探究活動を通じて、課題探究力を高める —
ICT機器を用いて情報の正確さを判断したり、情報を活用するために必要な収集・整理・分析の方法を学び、それらを自らの知識とし、他者の課題解決に役立てることができる	4	立場や考え方の違う相手から意見を引き出し、互いの立場を尊重して、課題解決に向けて合意形成を図り、さらにそれを実現できる
ICT機器を用いて情報の正確さを判断したり、情報を活用するために必要な収集・整理・分析の方法を学び、それらを自らの知識とし、自身の課題解決に役立てることができる	3	立場や考え方の違う相手から意見を引き出し、互いの立場を尊重して、課題解決に向けて合意形成を図ることが出来る
ICT機器を用いて情報の正確さを判断して自らの知識とし、得た知識や情報をまとめることができる	2	人と相談しながら自分の考えや思いを整理し、それらを表現して伝えることができる。
相談しながら知識や情報を集めることができる	1	テーマの提供や指導を受け、自分の考えを整理し、表現することができる。

実施予定時期	単元名	学習内容
1学期	○曲想を感じ取り曲にふさわしい発声で歌おう ○変奏や編曲に挑戦しよう ○音楽を形づくっている要素に注目して、曲のよさや美しさを探ろう	・日本語の歌「系」「SUN」「歩いて帰ろう」 ・創作「Happy Birthday to You」 ・「Allelujia」 ・鑑賞「ツイガース」
2学期	○日本や諸外国の歌曲に親しみ、表現を工夫しよう ○表現を工夫してギターを演奏しよう ○表現を工夫して合唱・合奏やヴォイス・アンサンブルをしよう ○オペラに親しみ、アリアに挑戦しよう	・世界の諸民族の音楽、コンテンポラリーミュージック ・ギター「天体観測」「愛のロマンス」 ・アンサンブル「夏は来ぬ」「涙そうそう」 ・オペラ「ラ・ボエーム」「魔笛」
3学期	○ポピュラー音楽の特徴を知り、ミュージカル・ナンバーを歌おう ○映画音楽に親しもう ○作曲家の生涯と作品をたどろう	・映画音楽「ハリー・ポッターと賢者の石」 ・ミュージカル「オペラ座の怪人」 ・「クローズ・アップ・マエストロ」 ・音楽史

評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・実技テスト ・定期考査 ・小テスト ・ワークシート課題 など	・実技テスト ・定期考査 ・ワークシート課題 ・鑑賞レポート など	・実技テスト ・課題ワークシートの記述 ・自己評価・振り返り ・授業内の活動への取り組み など
学習方法	芸術は感性を磨き、人生をより豊かに美しく生きていくために大切なものです。音楽をはじめ幅広い文化や芸術に触れたり、感じ取り考えることを通して、理解を深め、感じたものや考えたことを表現しながら、音楽を楽しんで活動していきましょう。 音楽Ⅱでは歌唱や器楽の演奏などをより実践的な活動を中心に進めていきます。楽しみながら積極的に楽しみながら音楽活動に取り組んでいきましょう。		
ICT活用	ドキュメント(レポート・ワークシート)、スライド(発表資料、まとめ) Forms(小テスト・振り返り・アンケート)、YouTube(音楽鑑賞)、Chrome Music Lab(創作)		

教科	英語	科目	英語コミュニケーションⅡ	単位数	4	学年	3年
教科書(出版社)	VISTA English Communication II (三省堂)						
副教材(出版社)	なし						

### 1. 科目の目標

<p>英語学習の特質を踏まえ、聞くこと、読むこと、話すこと[やりとり]、話すこと[発表]、書くことの五つの領域別に設定する目標の実現を目指す。指導を通して、下記の(1)～(3)の資質・能力を育成する。</p> <p>(1)外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能。</p> <p>(2)コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりする力</p> <p>(3)外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度</p>
---

### 科目のルーブリック

知識や情報等の活用 — 信頼できる知識や情報等を収集し、有効に活用できる —	レベル	課題探究力 — 探究活動を通じて、課題探究力を高める —
情報の正確さを判断して自らの知識とし、得た知識や情報をまとめて他者の課題解決に役立てることができる。	4	英語を通して自己と他者に対する思いやりの気持ちを備え、多様な文化や価値観に触れ、それを尊重し行動するために必要なスピーキング力、リスニング力、ライティング力、リーディング力(いずれもCEFR B2レベル)を身につけることができる。
情報の正確さを判断して自らの知識とし、得た知識や情報をまとめ、自身の課題解決に役立てることができる。	3	英語を通して多様な文化や価値観をふまえ、自らの思いを大切に、それを尊重し行動するために必要なスピーキング力、リスニング力、ライティング力、リーディング力(いずれもCEFR B1レベル)を身につけることができる。
情報の正確さを判断して自らの知識とし、得た知識や情報をまとめることができる。	2	英語を通して思いやりの気持ちを備え、それを尊重し行動するために必要なスピーキング力、リスニング力、ライティング力、リーディング力(いずれもCEFR A2レベル)を身につけることができる。
相談しながら知識や情報を集めることができる。	1	英語を通して人の意見を尊重し行動するために必要なスピーキング力、リスニング力、ライティング力、リーディング力(いずれもCEFR A1レベル)を身につけることができる。

実施予定時期	単元名	学習内容
1学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>Lesson 4 Designing Stamps</li> <li>Lesson 5 Mont-Saint-Michel</li> <li>Lesson 6 Smart Agriculture</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>切手デザイナー・形式主語・目的語it</li> <li>「モン・サン・ミッシェル」・現在完了進行形</li> <li>未来のスマート農業 have been done</li> </ul>
2学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>Lesson 7 Martial Art on Tatami</li> <li>Lesson 8 Biologging</li> <li>1 The Open Window</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>かるたの世界・関係代名詞非制限用法</li> <li>動物の科学調査・分詞・強調構文</li> <li>サキ『開いた窓』</li> </ul>
3学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>2 The Christmas Truce</li> <li>3 My Dream</li> <li>4 The Restaurant of Many Orders</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>『クリスマスの休戦』</li> <li>宇宙飛行士 野口聡一『私の夢』</li> <li>宮沢賢治『注文の多い料理店』</li> </ul>

評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>観点に基づいて学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定に換算します。</p> <p>学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。</p>	<p>単元テスト、定期考査、小テスト、など</p>	<p>単元テスト、定期考査、パフォーマンステスト、学習状況の観察など</p>	<p>パフォーマンステスト、学習状況の観察、課題など</p>
学習方法	<p>授業中は英語を「使う」ことを意識して学習しましょう。また、教科書で取り上げられた題材についての知識を幅広く収集し、様々なことに興味関心を持って学習を行ってください。授業以外でもICTを活用して英語に触れる時間を積極的に作りましょう。</p>		
ICT活用	<p>ドキュメント(レポート・ワークシート)、スライド(発表資料・まとめ)、スプレッドシート(データ整理)、サイト(背景知識の収集)、Forms(小テスト・振り返り・アンケート)スタディサプリ、ターゲット1400</p>		

教科	英語	科目	英語コミュニケーションⅢ	単位数	3	学年	3 年
教科書(出版社)	VISTA English CommunicationⅢ(三省堂)						
副教材(出版社)	なし						

### 1. 科目の目標

英語学習の特質を踏まえ、聞くこと、読むこと、話すこと[やりとり]、話すこと[発表]、書くことの五つの領域別に設定する目標の実現を目指す指導を通して、下記の(1)～(3)の資質・能力を育成する。  
 (1)外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能。  
 (2)コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりする力  
 (3)外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度

### 科目のルーブリック

知識や情報等の活用 — 信頼できる知識や情報等を収集し、有効に活用できる —	レベル	課題探究力 — 探究活動を通じて、課題探究力を高める—
情報の正確さを判断して自らの知識とし、得た知識や情報をまとめて他者の課題解決に役立てることができる。	4	英語を通して世界と地域の持つ課題について自ら課題を発見し様々な解決策に触れることで、スピーキング力、リスニング力、ライティング力(いずれもCEFR B2レベル)を身に付けることができる。
情報の正確さを判断して自らの知識とし、得た知識や情報をまとめ、自身の課題解決に役立てることができる。	3	英語を通して世界と地域の持つ課題について自ら課題を発見し様々な解決策に触れることで、スピーキング力、リスニング力、ライティング力(いずれもCEFR B1レベル)を身に付けることができる。
情報の正確さを判断して自らの知識とし、得た知識や情報をまとめることができる。	2	英語を通して世界と地域の持つ課題について自ら課題を発見し様々な解決策に触れることで、スピーキング力、リスニング力、ライティング力(いずれもCEFR A2レベル)を身に付けることができる。
相談しながら知識や情報を集めることができる。	1	英語を通して世界と地域の持つ課題について自ら課題を発見し様々な解決策に触れることで、スピーキング力、リスニング力、ライティング力(いずれもCEFR A1レベル)を身に付けることができる。

実施予定時期	単元名	学習内容
1学期	Lesson 1 English as an International Language Lesson2 Digital Art Lesson 3 Sports Unite People for Peace	Lesson 1 何かを勧めるときの表現 Lesson2 相手に賛成するときの表現 Lesson 3 質問を始めるときの表現
2学期	Lesson 4 Let's Have Picnic! Lesson 5 Dresden Elbe Valley Lesson 6 Flowers from Life	Lesson 4 相手への同意を表すときの表現 Lesson 5 反対するときの表現 Lesson 6 グラフや統計を引用紹介するときの表現
3学期	Lesson 7 Global Refugee Crisis Lesson 8 Dream Bigger, Go Farther	Lesson 7 話しの内容を弱める表現 Lesson 8 発言を強めるときの表現

評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観点に基づいて学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定に換算します。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。	単元テスト、定期考査、小テスト、など	単元テスト、定期考査、パフォーマンステスト、学習状況の観察など	パフォーマンステスト、学習状況の観察、課題など
学習方法	授業中は英語を「使う」ことを意識して学習しましょう。また、教科書で取り上げられた題材についての知識を幅広く収集し、様々なところに興味関心を持って学習を行ってください。授業以外でもICTを活用して英語に触れる時間を積極的につくりましょう。		
ICT活用	ドキュメント(レポート・ワークシート)、スライド(発表資料・まとめ)、スプレッドシート(データ整理)、サイト(背景知識の収集)、Forms(小テスト・振り返り・アンケート) スタディサプリ、ターゲット1900		

教科	英語	科目	論理・表現Ⅱ	単位数	2	学年	3 年
教科書(出版社)	VISTA Logic and ExpressionⅡ(三省堂)						
副教材(出版社)	なし						

### 1. 科目の目標

英語学習の特質を踏まえ、話すこと[やりとり]、話すこと[発表]、書くことの三つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、記の(1)～(3)の資質・能力を育成する。

(1)外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能。

(2)コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりする力

(3)外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度

### 科目のルーブリック

知識や情報等の活用 — 信頼できる知識や情報等を収集し、有効に活用できる —	レベル	郷土の未来創造 — グローバルな視点をもち、郷土の未来を想像できる—
知識の獲得に取り組み、英語を通して必要な情報の収集を行い、それらを自らの知識とし、自身および他者の課題解決に役立てることができる	4	グローバルな視点を持って、地元へ貢献するのに必要なスピーキング力、リスニング力、ライティング力(いずれもEFR B2レベル)を身に付け、郷土の未来創造のために行動できる
知識の獲得に取り組み、英語を通して必要な情報の収集を行い、それらを自らの知識とし、自身の課題解決に役立てることができる	3	グローバルな視点を持って、地元へ貢献するのに必要なスピーキング力、リスニング力、ライティング力(いずれもEFR B1レベル)を身に付け、郷土の未来創造のために行動できる
情報の正確さを判断して自らの知識とし、得た知識や情報をまとめることができる	2	グローバルな視点を持って、地元へ貢献するのに必要なスピーキング力、リスニング力、ライティング力(いずれもEFR A2レベル)を身に付け、郷土の未来創造のために行動できる
相談しながら知識や情報を集めることができる	1	グローバルな視点を持って、地元へ貢献するのに必要なスピーキング力、リスニング力、ライティング力(いずれもEFR A1レベル)を身に付け、郷土の未来創造のために行動できる

実施予定時期	単元名	学習内容
1学期	Lesson 1 Guess Who? Lesson 2 Space Travel Lesson 3 Where Is the Post Office	Lesson 1 人物やキャラクターを描写する Lesson 2 希望や願望を示す Lesson 3 場所・行き方をたずねる
2学期	Lesson 4 Wonderful World Lesson 5 Job Search Lesson 6 New Type Robots! Lesson 7 Enjoy Japanese Foods	Lesson 4 具体的に説明を加える Lesson 5 図表を説明する Lesson 6 能力を示す Lesson 7 数量や順序・経過を表す
3学期	Lesson 8 Looking for an Apartment Lesson 9 Ideas from Nature Lesson 10 Let's Learn about SDGs!	Lesson 8 対比する Lesson 9 理由を述べる Lesson 10 出典・引用を利用し、考えを述べる

評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観点に基づいて学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定に換算します。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。	単元テスト、定期考査、小テスト、など	単元テスト、定期考査、パフォーマンステスト、学習状況の観察など	パフォーマンステスト、学習状況の観察、課題など
学習方法	授業中は英語を「使う」ことを意識して学習しましょう。また、教科書で取り上げられた題材についての知識を幅広く収集し、様々なところに興味関心を持って学習を行ってください。授業以外でもICTを活用して英語に触れる時間を積極的につくりましょう。		
ICT活用	ドキュメント(レポート・ワークシート)、スライド(発表資料・まとめ)、スプレッドシート(データ整理)、サイト(背景知識の収集)、Forms(小テスト・振り返り・アンケート) スタディサプリ、ターゲット1400		

教科	情報	科目	情報叢知	単位数	1	学年	3 年
教科書(出版社)	大学生のための動画作成入門 言いたいことを映像で表現する技術(慶應義塾大学出版会)						
副教材(出版社)	なし						

### 1. 科目の目標

<p>情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的、創造的に活用し、情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 多様なコミュニケーションの実現、情報システムや多様なデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報技術の発展と社会の変化について理解を深めるようにする。</p> <p>(2) 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的、創造的に活用する力を養う。</p> <p>(3) 情報と情報技術を適切に活用するとともに、新たな価値の創造を目指し、情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与する態度を養う。</p>
---

### 科目のルーブリック

知識や情報等の活用 — 信頼できる知識や情報等を収集し、有効に活用できる —	レベル	課題探究力 — 探究活動を通じて、課題探究力を高める —
様々な撮影機器を使用し、自ら撮影した映像素材を用いて、動画のテーマ(伝えたいこと)を意識しながら、視聴者に伝えるように動画を作成することができる。	4	地域だけでなく、世界中の課題に関連させながら自ら課題を発見し、多角的な視点でその解決に取り組むことを通じて、動画作成に向けた活動ができる。
様々な撮影機器を使用し、自ら撮影した映像素材を用いて、動画のテーマ(伝えたいこと)を意識しながら動画を作成することができる。	3	地域課題を自ら発見し、多角的な視点でその解決に向けて計画を立て、動画制作に繋げることができる。
様々な撮影機器を使用し、自ら撮影した映像素材を用いて、動画を作成することが出来る。	2	地域や自らが抱える様々な課題を認識し、その解決に向けて計画を立て、動画作成に繋げることができる。
相談しながら動画を作成をすることが出来る	1	地域や自らが抱える様々な課題を認識し、動画作成につなげることができる。

実施予定時期	単元名	学習内容
1学期	1 テーマ決め 2 企画書作成 3 構成表作成	1 テーマ決め 2 企画書作成 3 構成表作成
2学期	4 撮影 5 ラッシュ表作成 6 本構成表作成 7 編集	4 撮影 5 ラッシュ表作成 6 本構成表作成 7 編集
3学期	7 編集	7 編集

評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観点に基づいて学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定に換算します。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。	単元テスト、編集技術テスト、など	レポートの記述、探究活動の内容、学習状況の観察など	学習状況の観察、課題等の記述、自己評価など
学習方法	撮影機器の使い方や動画を作る際の事前準備などを学んでいきます。自分の考えや伝えたいことを、動画を使って発信していくことがメインになります。制作段階では、グループを通して作業していくので、周りの生徒と一つの作品を作ることを理解しながら学習していきましょう。		
ICT活用	ドキュメント(動画の作品決め)、スライド(絵コンテ作成時)、スプレッドシート(データ整理)Miro(意見集約・まとめ)、Forms(小テスト・振り返り・アンケート)		

教科	家庭	科目	フードデザイン	単位数	2	学年	3年
教科書(出版社)	フードデザイン Food Changes LIFE (教育図書)						
副教材(出版社)	なし						

### 1. 科目の目標

家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、食生活を総合的にデザインするとともに食育を推進し、食生活の充実向上を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

(2) 食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。

(3) 食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

### 科目のルーブリック

知識や情報等の活用 — 信頼できる知識や情報等を収集し、有効に活用できる —	レベル	課題探究力 — 探究活動を通じて、課題探究力を高める —
ICT機器や本などを用いて情報を収集・整理・分析の方法を学び、それらを自らの知識とし、他者の課題解決に役立てることができる	4	立場や考え方の違う相手から意見を引き出し、互いの立場を尊重して、課題解決に向けて合意形成を図り、さらにそれを他者へ伝えるために、適切かつ効果的な情報デザインを考えることができる
ICT機器や本などを用いて情報を活用するために必要な収集・整理・分析の方法を学び、それらを自らの知識とし、自身の課題解決に役立てることが出来る	3	立場や考え方の違う相手から意見を引き出し、互いの立場を尊重して、課題解決に向けて合意形成を図ることが出来る
ICT機器や本などを用いて情報の正確さを判断して自らの知識とし、得た知識や情報をまとめることができる	2	互いの立場を尊重し、ともに課題解決に向けて活動することが出来る
相談しながら知識や情報を集めることが出来る	1	話し合いの場で、自分の意見を持つことが出来る

実施予定時期	単元名	学習内容
1学期	3章 食品の特徴・表示・安全 6章 フードデザイン実習	1節 食品の特徴と性質 2節 食品の生産と流通 3節 食品の選択と表示 4節 食品の衛生と安全 調理実習
2学期	4章 調理の基本 6章 フードデザイン実習	1節 調理とおいしさ 2節 調理操作 3節 調味操作 調理実習
3学期	5章 料理様式とテーブルコーディネート 7章 食育 6章 フードデザイン実習	1節 料理様式と献立 2節 テーブルコーディネート 調理実習 1節 食育の意義と推進活動

評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観点に基づいて学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定に換算します。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。	・単元テスト ・小テスト ・定期考査 ・定期考査など	・定期考査 ・調理実習の記述 ・レポート ・学習状況の観察 など	・学習状況の観察 ・課題等の記述 ・自己評価 など
学習方法	フードデザインは、2年間を通して食について学びます。取得した知識や技術を活用し、食生活を総合的にデザインするとともに、日常生活に生かせるように毎回の授業を大切にして、課題提出や実習等にも積極的取り組みましょう。		
ICT活用	ドキュメント(レポート・ワークシート)、スライド(発表資料・まとめ) Forms(小テスト・振り返り・アンケート)、classroom(課題提出など)		